

木祖村議会だより



道

なみ



シリーズ

明日の木祖村のために
「村会議員」になろう!!

「みんなで力を合わせて、がんばるぞ!」(10月8日 藪原ミニ運動会)

平成30年12月6日

No 162

9月
会議

平成29年度決算認定

村税は平成19年度をピークに減少傾向つづく 法人住民税は増収









9月7日(金)に再開された平成30年木祖村議会9月会議では、下記の議案等について慎重審議し、全案件を原案どおり可決し、9月14日(金)に休会しました。

- ・決算認定6件 (平成29年度決算)
- ・補正予算3件 (平成30年度予算)
- ・人事案件2件 (監査委員、教育委員会委員)
- ・条例改正1件 (固定資産税の課税免除)
- ・報告 1件 (平成29年度決算に基づく健全化判断比率 他)

平成29年度 村のお金の使い道! (一般会計目的別決算概要)

歳入：28億2447万円 (△4億1609万円) 歳出：27億2018万円 (△2億8237万円)

防災無線戸別受信機整備事業で増加も、旧カワベ工場跡地取得終了等により減少

<p>総務費 5億3065万円 (△2億8611万円)</p> <p>職員給与、役場庁舎の維持管理費、小・中学校劣化度調査 他</p> 	<p>民生費 4億8431万円 (2664万円増)</p> <p>福祉タクシー車両更新、介護保険・予防事業 他</p> 	<p>衛生費 2億6944万円 (7310万円増)</p> <p>プレママサポート、各種検診・予防接種 他</p> 
<p>農林水産業費 2億1763万円 (△1814万円)</p> <p>6次産業化推進 (加工施設調査)、地籍調査、緩衝帯の整備 他</p> 	<p>商工費 1億3979万円 (△285万円)</p> <p>観光協会運営補助、プレミアム商品券発行、観光宣伝広告 他</p> 	<p>土木費 3億2030万円 (△4390万円)</p> <p>見山地区急傾斜地崩壊対策、道路維持、橋梁長寿命化事業 他</p> 
<p>消防費 1億7847万円 (3532万円増)</p> <p>第3分団消防ポンプ積載車更新、雨量計設置、住宅耐震改修 他</p> 	<p>教育費 1億9053万円 (△3563万円)</p> <p>中学校雨漏改修、普通教室棟LED化、公民館運営費 他</p> 	<p>災害復旧費 552万円 (△220万円)</p> <p>H28年9月の台風16号による災害復旧工事 (線越分) 他</p> 
<p>公債費 3億6361万円 (1080万円増)</p> <p>地方債 (過疎対策事業債など) の元利償還金</p> 	<p>議会費 3458万円 (56万円増)</p> <p>議員報酬、議員共済への拠出など議会運営費 他</p> 	<p>基金・諸支出金 4262万円 (△3997万円)</p> <p>居住希望者奨学資金貸付制度創設に伴う基金積立 他</p> 

※ () 内の数字は前年度比。△は減額。

総務課

味噌川ダム償却資産税の減少による収入減少
影響は少ないが長期的な健全運営の対策を

問 庁内人事評価の成果について。

答 平成28年度より実施しており、まだ日は浅いが個別面談の実施、職員研修を取り入れながら今後も活用していく。人づくりの点で成果は出てきていると考える。

問 村有地の財産管理状況について。

答 登記の遅延等により管理が不十分である。早期に改善をしたい。

問 ケーブルテレビ木祖村チャンネルでは、藪原まつりを主として放映している。小木曾や菅の祭りも放映されることが木祖村での文化財保護へも繋がっていくものと考えているが、今後の放映計画等はあるか。

答 衣更着神社祭礼は今年撮影がされていた。地域の文化財保護のためにも活用を考えていきたい。

問 広報きそは文字も大きく見やすくなってきている。文字が大きくなることによりページ数が増加すれば、発行費は増額となるものと考えられるが減額の要因は。

答 ページ数の減少が大きな要因である。

意見 さらに内容の充実、見やすさ、読みやすさを追求していただきたい。



木祖村のふるさと納税返礼品のお六櫛とサワラ桶



問 村税減収が今後の財政運営にどのような影響を与えると考えられるか。

答 味噌川ダムの償却資産税分の減収が最大の要因であり、75%が交付税措置されるため影響は少ない。しかし、今後は憂慮されることも考えていかなければならない。

問 ふるさと納税の減収において返礼品の見直しは考えているか。

答 返礼品見直しは検討していく。減収は、テレビ放映により急増していたお六櫛の宣伝効果が薄れてきたことやふるさとチョイス・クレジット決済の定着によるものと考えている。

問 地域振興バス「ひまわり号」の休日利用増の要因は。また、今後はデマンド交通への移行を考えていった方が良いのでは。

答 水木沢等への利用減も見られるが、村民の利用が増えている。福祉タクシーとの絡みもあるが庁内ではデマンド交通への移行も考慮している。

問 本年度で終了するサマーキャンプであるが、方法等を変更、検討し継続できないか。

答 財源の問題や事故への心配、また、旅行業法の改正に伴い実施が困難となった。一度区切りをつけたい。水とのつながりで木祖村と下流域の子どもとの交流は形を変えてでも継続することを考えている。

問 空き地を更地にすることで税金が上がる。このことが空き家解体の障害となっていると考えられるか。

答 減税措置を図れるようしていきたい。

問 藪原スキーリフト桧の出資金の処分をどう扱っていくのか。

答 司法書士と相談しながら財産処分する方向で検討していく。

問 第5次総合計画の実施に向けて今後進められていくわけであるが、第4次総合計画があつての第5次総合計画であるべきものであり、その総括はできていたのか。

答 5年毎に基本計画は見直されていくものであり、資料としてチェックはしてきた。

問 住民目線でのチェックも必要なのでは。

答 策定委員のメンバーには一般住民も加わり十分に議論はされてきたと考える。

問 公会計への移行に関しては。

答 平成29年度決算については固定資産台帳の整備を進めながら財務諸表の公表は済んでおり、活用することが大事であると考ええる。



住民福祉課

問 臨時福祉給付金について来季消費税増税後の対応を考えているのか。

答 国の制度であり動向を見守っていきたい。

問 臨時福祉給付金申請率の増加の要因は。

答 現在100%ではないが個人通知への徹底の結果ではないのかと考えている。

問 特定検診の受診率において、通院者や企業内での検診受診者の把握をどう考えていくのか。

答 通院者は関係機関と協議中であり、企業受診者はポイント制を活用することにより提出する人が増えている状況である。

問 木祖村総合防災訓練において、避難経路の寸断により限られた避難場所に行かざるを得ない地区も出て来る。そうした場合避難経路の拡幅等の整備は実施してくれるのか。

答 村が指定する避難所への移動であり、大事なことである。検討していく。

問 結婚祝い金の転出者給付の必要性はあるのか。

答 それぞれの嫁ぎ先にて木祖村を宣伝してもらいたいがためである。

意見 いろいろな事情で村を離れる人がいる中で、結婚で転出する人への祝い金給付は、条件等を付けるなどの制限も必要なのでは。

問 結婚支援補助金の内容について。

答 従来のイベント会社による事業は継続実施していくが、男女が気軽に出会える機会の創出のため、5万円を限度に飲食、講演会と様々なことに活用できる補助金とした。現在、住民福祉課の若手職員

チームでPDCAサイクルの取り組みを始めている。

問 現在紙オムツ助成金は介護度3以上の申請者に対する在宅支援であるが、介護度2以下の人でも使用している人はいる。制度の緩和、対象者の拡充はできないのか。

答 現在40〜50名の利用者がいる。次年度以降必要な方への拡充を検討していく。

問 それ程進まないマイナンバーカードの取得ではあるが、行政にメリットとなる事例はあつたのか。

答 転入者への所得照会が情報連携により簡素化となつた。



第5次総合計画策定委員会

教育委員会

問 生徒数の減少対策に対する緊急性についての考えは。

答 現在一定の生徒数は確保できているが、今後の推移を見極め長期的な対策を取る必要があると考ええる。

問 総合グラウンドの照明は適切な照度を確保できているのか。

答 照度調査の結果一部に足りない部分を確認された。解消に向け今後計画的に進めていく。



村総合グラウンドで行われるナイターソフト

農林課

問 飯米原地区の農業耕作者より、導水対策の要望があるが。

答 中山間地域総合整備事業で計画を進めていく。取水個所の検討、ポンプアップによる導水等考えている。耕作者の合意を得ながら進めたい。

問 西山地区の獣害対策（イノシシ）について。

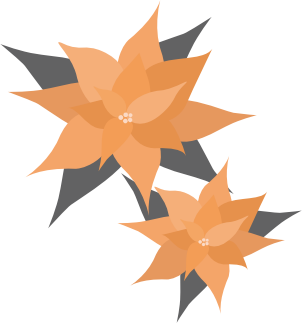
答 個人で電気柵の設置や、村でもハドウ（イノシシ）に効果があると言われているプラスチック製の玉を10個購入し設置したが効果はわからない。電気柵のない道路より、入ることも考えられる。また、群馬県の対策として効果のあるグリーチングを視察し参考にしたい。

問 東京農業大学との包括連携協定を結んでいるが実績は。

答 大学の合宿やマラソンの参加を提案しているが実績はない。

問 木祖村産のトウモロコシの生産および販売状況は。

答 個人の販売によることから把握はされていないが、今後調査をしたい。



商工観光課

問 水木沢天然林の入込客が減少傾向にあるが対策は。

答 アクセスだけの問題ではないと思う。水木沢天然林の魅力・情報発信を強化し、環境整備強化や仕掛けを考えたい。

問 源気くんノートはノベルティグッズとしては単価が高い。交流事業でパンフレットと同様に配布するのでなく、宣伝効果がでるよう配布方法を検討すべきである。

答 こだまの森の来場者に直接手渡しをするなど、効果的に使用したい。

問 青木ヶ原工業団地の会社では従業員確保をできないか。

答 会社に従業員募集依頼をしたが現在はいない。
意見 将来的には、財産収入だけでなく、雇用が確保され社員が常駐する企業誘致を目指すべきである。



源気くんノート

村民センター・中学校の雨漏り改修工事費を計上 公共施設の効率的・計画的な維持管理を

人事案件

●木祖村監査委員

奥原 太門 氏(再任)

【任期】 平成30年9月25日から
平成34年9月24日まで

●木祖村教育委員会委員

永島 芳晃 氏(再任)

【任期】 平成30年10月1日から
平成34年9月30日まで

条例改正

■木祖村企業立地の促進に係る 固定資産税の課税免除に関する条例の改正

【改正内容】

企業立地推進法の一部改正により、法律の題名が「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律(地域未来投資促進法)」に改められたことに伴い、条例の題名と引用条項のずれに係る規定の整理を行うもの。

議会一コマ

上記のように国の法律に改正がある場合、その法律に係る村の条例も改正する必要があります。条例の名称や字句の変更だけでなく、条例改正として議会の議決が必要になります。



11月4日 むらづくりミーティング

補正予算

【主な補正内容】

・マイクローバス購入費	871万円
・村民センター雨漏り改修工事	194万円
・中学校門柱改修設計委託料・工事費	49万円
・中学校体育館雨漏り改修設計委託料・工事費	138万円
・村営住宅落雪防止フェンス設置工事	100万円
・むらづくりミーティング	19万円

補正予算委員会審議

問 今年度のむらづくりミーティングの内容は。

答 地域の支え合いをテーマとして講演会、福祉施設の説明会、福祉施設に対する村民からの意見を聞く場を設ける内容とする予定である。

問 小学校北側のコンクリート擁壁修繕工事の工法は。

答 今回はクラック部分を掘り補修する工事とする。工法については検討していく。

問 村民センター雨漏り修繕の詳細は。

答 雨漏りをしていると思われる箇所のみ修繕であるが、探穴調査の結果によっては変更の可能性もある。

意見 今後、様々な公共施設で改修・修繕の必要が出てくると考えられる。計画的・効率的な公共施設の維持管理を。

問 村営住宅落雪防止工事は雨漏り対策も一緒に考えているのか。

答 工事予定の村営住宅には電熱線が整備されているが、溶け切れない部分があるため今回設置するものである。雨漏り対策は考えていない。

問 村のマイクローバス購入費が計上されているが、経過年数と今年度購入の理由は。

答 現在の村マイクローバスは購入から16年が経過している。当初購入は平成31年度を予定していたが、木曾広域CATV光化事業が2カ年での実施になったことから今年度購入することとなった。

唐澤村政2期目はじめての議会 議会は補欠選挙により10人体制での新たな船出

議会構成が変わりました。

9月25日告示の木祖村議会議員補欠選挙の結果を受け、10月会議の本会議にて議会構成が変更されました。変更された委員会等の構成は左記のとおりです。

【厚生文教委員会】

委員長	青木 功
副委員長	唐澤 重明
委員	武居 孝男・深澤 衿子 岩原 大輔・田上 芳朗

【産業経済委員会】

委員長	栗屋 正一
副委員長	丸山 徹三
委員	深澤 衿子・古畑 節行 岩原 大輔・田上 芳朗

【表彰審査委員会委員】

議長	田上 康男
副議長	岩原 大輔
厚生文教委員長	青木 功
厚生文教委員	唐澤 重明・武居 孝男 深澤 衿子・田上 芳朗

専決報告

■平成30年度木祖村一般会計補正予算

【主な補正】

- 台風21号被害関係
・役場庁舎屋根根元急復旧および補修 406万円
・重機借り上げ料 37万円
・弓道場軒天補修 15万円

●台風24号被害関係

- ・消防団等警戒・土嚢づくり出動費 14万円

●その他

- ・9月18日行方不明者捜索出動費 30万円

契約の締結

公用車購入(村マイクロバス)

契約金額 738万6099円

【契約の相手方】

長野トヨタ自動車株式会社 木曾店
〔仕様〕

車名：COASTER (GX)
乗車定員：28人

ボディカラー：シルバーメタリック

【納車予定】

平成31年2月



9月の村議会議員補欠選挙で
当選した 田上芳朗氏

任期満了に伴う木祖村長選挙が9月25日に告示され、無所属で現職の唐澤一寛氏の無投票での再選が決まりました。木祖村長選挙の無投票は平成18年以来12年ぶりです。また、同日行われた村議会議員の補欠選挙に、新人で無所属の田上芳朗氏が立候補をし、同じく無投票で当選をしました。田上氏の任期は、現村議の残任期間の平成31年4月29日までとなります。

10月26日、唐澤村長2期目最初の議会となる木祖村議会10月会議が再開され、村長の所信表明の後、専決報告2件(補正予算)、物品購入契約の締結1件の議案が審議され、原案どおり可決されました。

また、6議員から8問の一般質問が提出されました。例年、一般質問は9月会議で行いますが、今回は村長選挙の選挙日程の関係により、村長2期目の所信表明後に行うこととなりました。

一般質問

村政を問う

6 議員 8 件

古畑 節行議員

1 人口の維持・仕事づくりの具体策

岩原 大輔議員

1 子育て世代への支援と子ども達への支援について

武居 孝男議員

1 公約の実現について
2 平和憲法擁護について

唐澤 重明議員

1 超高齢社会への対応は万全か

青木 功議員

1 高齢者がかかわれる農業の推進

深澤 衿子議員

1 村の防災対策について
2 村づくりは人づくり

村の資源・財産を生かした新たな雇用を考えることが地域再生に産業の創造と繋がる。今ある産業で大幅な雇用増は考えにくい。加工施設は特産品づくりの大きなチャンス。村がまず主導して人材を育成し、本腰を入れて極寒地でも可能な地元産物の6次化を推進すれば遊休地対策、農家所得向上、雇用増、特産品作りが可能となる。村長の目指す将来像を村民に明確に示すこと。具体的な施策を進めないと人口維持は難しい。



任期中公約で挙げた4つの施策を進め、2060年に2000人の足掛かりとしたい。死に物狂いでやりたい。

若年層へのアンケートで将来村に戻らない理由は仕事がない給与が安い、結婚支援には雇用に向けた環境整備を挙げている。仕事がないれば人口は流失し若い人は移住してこない。人口を維持していくには第一に仕事づくりである。

問 村長の公約は村が生き残り笑い声が絶えない村にする、人口減少をできる限り食い止め交流人口を増やすことしかないとの。人口が減れば村が立ち行かない。この5年間で275人・年に55人減っており17年後には2000人を下回る。

答 仕事づくりは地場産業を残すために力を入れる



古畑節行 議員

人口の維持・仕事づくりの具体策を問う

村長 新たなブランドを作るより今あるブランドの価値を高める。

仕事づくりはまず地場産業を残すために力を入れる。ブランド認証マークも作成したり企業誘致にも力を入れる。交流人口が増えれば雇用が生まれる。今後新たな仕事も作らねばという意識はあるが新たなブランドを作るより今あるブランドの価値を高めることが大切でそのための研究をする。加工所が出来れば10名程度の雇用も見込む。加工所の成功にはまず人づくり。人を作りに上げ磨くことが使命でありポイントである。



岩原大輔 議員

子育て世代への支援と子ども達への支援について

答 実情を的確に捉え、支援体制や教育環境の充実を図りたい

問 子育て支援の一層の充実をどう図るか。

村長 これまでの事業は継続しながら、福祉面では、木曽病院と連携した産後うつ予防のショートステイやデイサービスを行う。教育面では、学校施設の改修・点検、小学校での英語の教科化や放課後児童クラブの充実、発達障害への支援など教育環境を整えていく。

問 少子化による教育環境の変化への対応は。

村長 急激な児童・生徒数の減少はないと推測するが、少子化が進めば複式学級編成の検討も必要となる。教員確保を最優先とし、学習支援ボランティアや個別支援体制の充実を図っていきたい。行政、学校、保護者や地域が情報や課題を共有できる「教育ミーティング」を開催していく。

問 子ども達の体力低下への対応は。

村長 すくすく倶楽部や社会体育を通して子ども達の運動機会を増やすこと

が重要である。子どもたちの運動実態を的確に捉え、地域総合型スポーツ活動の体制を組織として動き出していくことが理想と考えている。

問 無添加・無農薬・化学処理なし等の給食づくりを村の姿勢として推進してはいかがか。

村長 現状の給食も安全・安心が保障されており、衛生面でも最大限配慮した給食設備等充実を図ってきた。更なる給食の品質向上を目指していきたい。

教育長 使用する食材や調味料は現場とも相談し、導入が可能かどうかを判断したい。給食を通して、家庭や地域が食に関心を持ち、さらに給食のあり方を地域全体で考えられる仕組みを考えていきたい。



武居孝男 議員

平和憲法擁護について

答 民主主義と平和について信念を貫いていく

問 村長就任1期目に非核宣言自治体協へ加盟を促した所、即座に快諾いただいた。長崎市で行われた大会には住民福祉課長が参加したようだが報告して欲しい。

住民福祉課長 58自治体から70名余が参加して長崎市長が木祖村の名前を高々と読みあげ参加者に報告されました。また、基調講演では、戦争は人が起す人災であると沖縄のひめゆり平和

祈念資料館の島袋元館長は、7万人の犠牲者を出した惨事は広島と同じ人間がつくり出した有史以来の最大の犯罪であると力説し、そのためには「しっかりと平和を訴え続けなければならぬ。」と述べたことがとても印象に残りました。

村長 私は民主主義と平和については揺らぐことない信念を貫いていくつもりです。



長崎市で開催された日本非核宣言自治体協議会の総会および研修会



唐澤重明 議員

超高齢社会の備えは大丈夫か

答 高齢者が笑顔で暮らせる村づくりに努める

問 近く団塊の世代が75歳以上となり超高齢社会のピークが来るが介護保険や村の福祉サービスで対応ができるのか。

村長 高齢化率は徐々に下がるが、75歳以上の後期高齢者が増え、一人暮らし、認知症の増加などで介護保険だけでは対応できない心配もある。国が地域の支え合いを推進しているので、地域包括支援センターを中心に福祉サービスや総合福祉施設の高度利用、地域の支え合いで、高齢者が安心して暮らせる村づくりを進めたい。

問 国は高齢者ばかりの地域でどう支え合えと言っているのか。独居の高齢者が寝たきりになって一人で暮らすことができない時、どんな対応ができるか、施設はどれだけ待てば入れるのか。

村長 施設はすぐに利用できないし、国は地域の支え合いを推奨。地域や家族でできることはやってみよう、計画的な介護ができるよう村も努める。施設はサニーヒルの場合、事情にもよるが半年から2年くらい待つ。介護の相

談はひっきりなしにきているのが現状。

問 高齢者のいきがいくつくりのため、地域公共交通にどう取り組むか。

村長 運転手の増員、高齢者の共通定期券発行を行った。今後は利用者の声を聴き住民や議会の皆さんと考えていく。

問 老人福祉法の基本理念が「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする」とあり、それを実現する責任は国や県、村にもあると定められている。どう感じているか。

村長 健康福祉計画で基本理念や基本目標を定め、高齢者も笑顔で安心して暮らせる村づくりに努める。総合福祉施設の高度活用により高齢者が健康で生きがいのある生活ができるよう取り組む。



青木 功 議員

唐澤村政における高齢者農業への推進について

答 福祉サイド等を含め重要な課題である

問 高齢者が関わる農業の現状と今後の課題は。

村長 70%近くが高齢農業従事者と思われる。今後、担い手不足等で自給農家の減少に伴い土地持ち非農家の増加が懸念されることである。

問 加齢による心身低下や高額農作業機械の購入等を含め、又、少ない年金暮らしの高齢者を取り巻く環境はますます厳しくなる状況下で、道の駅での直販や来季建設予定である加工施設への搬入農産物の栽培は、大きな収入源となり健康寿命を延ばすための生きがいともなる。認知症予防、健康寿命を延ばす要因として高齢者が農業に携わる意義が取り上げられるようになってきた。昨今、誰もが農業に従事できるよう、日々の管理外の耕耘等機械に携わる作業を委託する組織が必要と考える。今後の高齢者農業に対する考えを伺いたい。

村長 農作業受託組織の育成等で高齢者の小規模農家支援を含め、農業担い手不足の解消や遊休荒地対策を施策

として取り組んできた。高齢者が農業に携わることは福祉サイドの点からも有効であると共に、高齢自給農家の持つ小規模の田畑耕作には新たな農作業受託組織が求められている。心身に健康な生活が送れるよう、農作業の軽減化を図る取り組みとして、地域の実情に合った委託組織であることや農業機械を所有するオペレーターへの委託等、高齢者農業への支援を積極的に検討していきたい。新たな組織の設立に向け、既存の集落営農組織を含め具体的に進めていくが、道の駅での販売付加価値を付ける意味での加工施設への農産物供給により、少しでも高齢者の収入となるよう、又、生きがいづくりに貢献できるよう計画を進めていきたい。





深澤 衿子 議員

村の防災対策について

答 ハード・ソフト両面から 安全対策に取り組んでいく

問 天災を未然に防ぐことは難しいが、最近ではどこでどんな災害が起こるか分からない。自治会要望で毎年危険・緊急性の事案は早急に、と現地踏査をしているが、継続分も含め担当課で総点検をし状況把握の実施を望むが。

どこに誰がいるか、誰が助けるか、確認している。今夏の河川氾濫では、村が避難勧告の時点で速やかに住民は避難できた。TVなど見ているからお互いに連絡をとり避難できたと思う。弱者については今後どこかで一度やる方向で考える。

村長 自治会要望全体の1/3が防災に関係する事案である。危険な河川、急傾斜地、砂防など大事業となるものは県、国へ要望し取り組んでおり、今後も防災に関してはハード・ソフト両面から安全対策として取り組んでいく。

意見 「自分の命は自分で守る」という村側の指導はもつともであるが「村民の命は村を守る」という姿勢で防災に取り組むことを願う。

問 各地区のさせえ合いマップは毎年見直されているが避難訓練で弱者参加を実施したことはない。どんな災害が起こるか分からないからこそ実施することを私はいつも要望してきたが今後どう考えていくか。

村長 各地区でのさせえ合いマップで



村総合防災訓練

毎月実施中！ チーム議会 で議員協議会

木祖村議会では、議会基本条例制定後から議員協議会を毎月開催しています。議会機能を十分に発揮するため、議員間で情報提供や課題共有をし、議員個々だけではなく“チーム議会”として議会活動に取り組んでいます。

【7月協議会】

- 福祉施設検討会の進捗報告
- 木曾郡議員総会提出議題検討
木祖村議会提出議題
「木曾郡内中学校の総合型地域スポーツ活動
立ち上げの推進について」
- ※ 8月に予定されていた郡議員総会は大桑村
林野火災等のため中止となりました。

【8月協議会】

- 議会改革検討会から報告
(議員定数および議員報酬)
- 9月会議の日程確認

【9月協議会】(3回実施)

- 10月以降の議会構成の確認
- 議会改革検討会の今後の進め方
- 議会むらづくりサロンの開催検討

【10月協議会】

- 村長選挙・議員補欠選挙の結果報告
- 10月会議一般質問の質問事項検討
- 議会むらづくりサロンの内容検討・資料作成

明日の木祖村のために 「村会議員」になろう!!

シリーズ
その3

いよいよシリーズも3回を数えることになりました。

これまでのシリーズで議会の役割りや議員の仕事についてお話をさせていただきましたが、今回と次回の最終回では、議員になるための条件や議員を志すきっかけ、それに議員になるための手順、プロセスについて、お話をしたいと思います。

「私でも議員になれるの？」 もちろんです！木祖村のために議会議員になりましょう！

「なぜ議員になったの？」 志す動機やきっかけは十人十色

実は、地方議会の議員を少年時代から志したという話は、あまり聞いたことがありません。子ども達になりたい職業のランキングでは「その他公務員」が20位ぐらいに見られましたが、議員など政治家はランキングリストには見当たりませんね。

小さな自治体の議員が、どんな動機で議員に立候補したのかと言えば、ひと昔前は、住んでいる地域の推薦を受け地域住民から背中を押されて立候補するという方が一番多かったように思います。

しかし今はそうでもないようで、あくまでも推測に基づくと一般論ですが、自分自身の思想信条に基づいて自分の村の将来を考え一念発起という方が多いようです。

先のシリーズで触れた、議員報酬につられてという方は本当に稀だと思いますが、時間的にも経済的にもゆとりがあるので政治的な世界で自分の力や可能性を試してみたいという方は案外いるのかもしれないですね。

結論から言えばどのような動機であっても、また自薦や他薦どちらでも議員を志すことはできるということなのです。

議員に立候補する資格や条件は？

それでは本題の議員になるための条件などについて説明しましょう。

議員選挙に立候補できる人を正しく言うと「市町村議会議員の被選挙権のある人」と言います。その基本となる条件は『日本国民で満25歳以上であること』そして『その市区町村議会議員の選挙権を持っていること』この2つです。さらに選挙権には引き続き3か月以上の住所を有することという条件があります。

つまり、村会議員選挙に立候補できる条件は、

- 一、投票日に満25歳以上であること
- 二、木祖村に引き続き3か月以上住んでいること

です。ただ、注意していただきたいのは、選挙権や被選挙権は一定の条件で停止されることがあります。それは、犯罪行為により一定期間選挙権を停止される場合があるということです。禁固刑以上の刑に服している場合はもちろん、公職選挙法、政治資金規正法に違反した場合も、選挙権が一定期間停止されます。

立候補の決断までに 知っておきたいこと！

村会議員になろうという志と被選挙権があれば、誰でも立候補し選挙に臨むことができることが分かりました。しかし、当たり前なことですが選挙に当選しなければ村会議員になることはできません。

立候補することを決めてから、実際に立候補するまでには、いくつかの手続きがあります。また当選するためには法律で定められた決まり事を守りながら選挙戦を戦い得票数（自分の名前などが正しく書かれた票の数）が上位10番以内に入らなければなりません。

ただ、選挙に臨むにあたっては、木祖村の選挙管理委員会から説明を受けられます。書類や手順に間違いがないように事前に審査をしたり、選挙に関する手引書も用意してくれます。さらには、選挙に必要なアイテムも一部選挙管理委員会で用意してくれるものもありますので分からないことは選挙管理委員会が窓口となり対応をしてくれます。

ここで一つ補足しておきたいことは供託金制度です。立候補するにはお金が必要という話を聞いたことがあるかと思いますが、これは「供託金」として選挙の種類によって大きく異なり30万円から600万円くらいまで開きがありますが、事前に法務局に預けなければならぬお金です。

しかし、この供託金は町村議会議員選挙においては必要ありません。だからといって当選する意思も無いのに無責任な立候補をしたり、遊び半分ではないにしろ立候補をするなどの行為は厳に慎まなくてはなりません。個人で用意するお金はそれほど必要なくとも、選挙は準備から投票日まで税金が使われ、多くの人が関わるといふことを知っておきましょう。多くの人が注目しているのが選挙ですから、そんな中では良い意味で多くの人に注目してもらわなくては



はいけないということですね。

では、選挙にどれくらいのお金が必要のということですが、これは人によって異なります。本当に手元にあるものを使ったりすれば、それこそ数千円から数万円程度で、全部の費用を賄うことも可能かと思えます。そんな点は、選挙のためのアイテムなどと一緒に次回、一般的に考えられるケースとしてお話したいと思います。

選挙は来年4月、 今は何をすればいいの？

実は選挙に向けて何をどうするということ、事細かくアドバイスを申し上げると、公職選挙法の規定に抵触するケースもあるんです。

公職選挙法は重箱の隅をつつくような法律で、今の時代感覚からすると、何とかならないかと思うこともあるし、低い投票率や議員のなり手不足を解消するためには改正したり、自治体単位の特区や特例なども考えて欲しいと思うことが沢山あるんです。

あつ、これは余談というより、筆者の個人的な見解ですから、聞き流してください。

余談になつてしまいました。今、気を付けなければならぬことは公職選挙法で定められている「事前運動の禁止」です。選挙期間の前に自分への投票を依頼したり、特定の候補への投票を依頼してはいけないことになっています。知っていましたか？「うちのおじいちゃんが来年の村会議員選挙に出るつていうんだけど、家は親戚が少なくて大変なのよ。1票で良いからお願ひ！」これは、たぶんアウトです。しかるべき筋に知られたら、警告を受けるか、任意で取り調べを受けるなんてことも…。

では、今何をすればよいのでしょうか。
まず、家族や親族、友人知人の理解・協力を得ることです。それが無いと短期間の選挙戦は苦労の連続になるかも知れません。良き理解者や支援者の存在はとても大切で心強いものです。自分は何がしたいのか、何ができるのかなどを含め、色々な機会を捉えコミュニケーションを図り、自分の考えや自分にできそうなことを知ってもらうことは大切なことだと思えます。

ただし、そうした活動も度が過ぎると事前運動になりかねないので、注意が必要です。

次回予告

いよいよ最終回。

「どうしたら議員になれるの？」

というテーマで、準備や必要な手続き、選挙までの流れをモデルケースで紹介し、いつの日か立候補を考えていただくためのまとめとさせていただきます。

元気発見！ むらびと大図鑑



今号のむらびと大図鑑は、唐澤一寛村長です！

インタビュー前日は東京出張、当日は村の大事な協議と毎日村のために多忙な中、インタビューに応じていただきました。議場では聴けないあれやこれ、そして役場就職当時から今日まで村民の知らない村長の想いをインタビューしました！



村内の会場で
住民と談笑する村長

Q. 民間企業にお勤めだったと聞いてますが、どうして役場に？

高速道路や橋を造ってみたいという夢があって、測量設計の仕事をしていました。実は花の木バイパスの測量設計は私がやったんです。その仕事の時、当時の日野村長に「ダム対策のインフラ整備をぜひ手伝ってほしい！」と誘われました。

Q. 当時の役場の印象はどうでした？

民間企業は、自分が働いて給料分のお金を稼いでこなくてははいけません。公務員は始めから給料分のお金があって、緊張感のないのんびりした雰囲気職場だと感じました。

Q. 今の木祖村を客観的に見てどう評価していますか？

間違いなく平均点以上の村だと思いますが、点数をつけるのは難しい。高速道路や新幹線が通っていれば違った村になっていたと思いますが、今は木曾川源流の村として頑張るしかない！

Q. もし当時副村長で現役を引退していたらどんなことをしたいと思っていましたか？

山が好きなので全国の百名山を登ったり、お世話になった村が元気になるような活動をしたと思っていました。そういう意味では村長の仕事もお世話になった地域への恩返しだと思っています。

Q. 好きな食べ物や嫌いな食べ物はありますか？

あまり好き嫌いはないけど、大好きなのは魚。苦手な食べ物は納豆くらいかな。

Q. 好きな言葉や座右の銘とかありますか？

「誠心誠意」いつも心掛けているし、一番大事なことだと思っている。何事にも誠心誠意で臨み仕事でも付き合いでも信頼関係を築いてきたと思う。

時節柄、最後に年末ジャンボで10億円が当たったらどう使うかとお聴きたら、ひと思案して「スキー場のリフトを全部架け替えるか」と笑いながら答えてくれました。



枝打ち作業もお手の物！

編集後記

先日、教育委員や民生委員の皆さんが毎月行っている木祖小・中学校での「あいさつ運動」に参加してきました。午前7時。まだ陽があたらない中学校の正門に、生徒たちが登校してきました。どこか緊張気味に見えたのは、間近に迫ったテストのためだったのでしょうか。小学校では、徒歩やバスで続々と子ども達が登校してきました。学校に入る前には、ランドセルを置き、体力づくりの校庭ランニングもがんばっていました。

小学校と中学校のどちらにも共通していたことは、児童・生徒から元気な声で「おはようございます！」と挨拶ができること。挨拶は、日常生活やコミュニケーションの基本であり、相手がいるからこそできるものです。「朝から誰かに元気に挨拶ができること。」お互いに当たり前なことではなく、幸せなことだと改めて感じることができました。

木祖村議会報編集委員会 委員長 岩原大輔 委員 唐澤重明 青木 功 栗屋正一